

令和6年度事業計画(美術館)

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

公益目的事業2(展覧会事業)

1. 「コレクション展」の開催

- ア. 名称 「サントリー美術館コレクション展 名品ときたま迷品」
- イ. 会期 令和6年4月17日(水)～令和6年6月16日(日)
- ウ. 概要 サントリー美術館は「生活の中の美」を基本理念に掲げ、長年にわたって活動を続けてきました。その成果は、これまでに開催された多彩な企画展として実を結んできましたが、一方で、継続的な作品収集活動によって、独特のコレクションを形成するに至りました。本展では、このコレクションを特徴づける国宝1件、重要文化財15件をはじめとした、当館が誇る名品の数々を通じて、先人の思いが込められた日本美術の精髓をご紹介します。
- エ. 展示
- ・国宝「浮線綾螺鈿蒔絵手箱」 一合 鎌倉時代 13世紀
 - ・「鞠・鞠挟」 一組 江戸時代 18～19世紀
 - ・「椿彫木彩漆笈」 一背 室町時代 16世紀
 - ・「御簾綾杉蒔絵結文形文箱」 一合 桃山時代 17世紀
- オ. 備考 共催：朝日新聞社 巡回：無し

2. 「徳川美術館展」の開催

- ア. 名称 「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」
- イ. 会期 令和6年7月3日(水)～令和6年9月1日(日)
- ウ. 概要 将軍家に連なる御三家の筆頭格であった尾張徳川家に受け継がれてきた什宝の数々を所蔵する徳川美術館。家康ゆかりの遺宝「駿府御分物」をはじめ、歴代当主や夫人たちの遺愛品から、刀剣、茶道具、香道具、能装束などにより、徳川家の歴史と華やかで格調の高い大名文化をご紹介します。とくに屈指の名品として知られる国宝「源氏物語絵巻」と、三代将軍家光の長女千代姫が婚礼調度として持参した国宝「初音の調度」も特別出品される貴重な機会となります。
- エ. 展示
- ・国宝「源氏物語絵巻 柏木(三)」平安時代 12世紀 徳川美術館蔵
 - ・国宝「初音蒔絵旅眉作箱」江戸時代 17世紀 徳川美術館蔵
 - ・国宝「太刀 銘 長光 名物 津田遠江長光」鎌倉時代 13世紀 徳川美術館蔵
- オ. 備考 共催：徳川美術館、読売新聞社 巡回：あべのハルカス美術館

3. 「英一蝶展」の開催

- ア. 名称 「没後300年記念 英一蝶(仮称)」
- イ. 会期 令和6年9月18日(水)～令和6年11月10日(日)

- ウ. 概要 英一蝶（1652～1724）は元禄年間（1688～1704）前後に、江戸を中心に活躍した絵師です。はじめは狩野探幽の弟・安信に師事しますが、菱川師宣や岩佐又兵衛らに触発され、市井の人々を活写した独自の風俗画を生み出しました。また、元禄11年（1698）、47歳で三宅島に流罪になっており、島で描かれた作品は〈島一蝶〉と呼ばれ、とくに高く評価されています。一蝶の没後300年を記念する本展は、国内における代表作の数々とともに、米国・メトロポリタン美術館からの里帰り作品も交え、その画業と魅力あふれる人物像に迫るものです。
- エ. 展示 ・重要文化財「布晒舞図」 英一蝶 一幅 江戸時代 17～18世紀 遠山記念館蔵
 ・「吉原風俗図巻」 英一蝶 一巻 元禄16年（1703）頃 当館蔵
 ・「雑画帖」 英一蝶 一帖 江戸時代 17世紀 大倉集古館蔵
- オ. 備考 共催：NHK プロモーション、朝日新聞社 巡回：無し

4. 「儒教展」の開催

- ア. 名称 「日本美術と儒教（仮称）」
- イ. 会期 令和6年11月27日（水）～令和7年1月26日（日）
- ウ. 概要 儒教は、紀元前6世紀の中国で孔子と弟子たちが唱えた倫理思想です。日本には古代に伝来し、その後、主に宮廷や寺院で享受されてきましたが、近世において社会に広く普及しました。その結果、儒教は為政者から民衆まで浸透し、理想の君主像を表した「帝鑑図」から浮世絵の見立絵まで、美術にも幅広く影響を与えました。本展では、儒教に根ざした日本美術に注目し、儒教を学び受容した人々が生み出した豊かな作品群をご紹介します。
- エ. 展示 ・「桐鳳凰図屏風」狩野探幽 六曲一双 江戸時代 17世紀 当館蔵
 ・重要文化財「賢聖障子」狩野孝信 二十面のうち八面 江戸時代
 慶長19年（1614） 仁和寺蔵
 ・重要文化財「二十四孝図襖」伝狩野永徳 十四面のうち八面 桃山時代
 天正14年（1586） 南禅寺蔵
- オ. 備考 共催：朝日新聞社 巡回：無し

5. 「ガレ展」の開催

- ア. 名称 「没後120年記念 エミール・ガレ：憧憬のパリ（仮称）」
- イ. 会期 令和7年2月15日（土）～令和7年4月13日（日）
- ウ. 備考 共催：未定 巡回：富山市ガラス美術館

収益事業

1. 物販事業

企画展や収蔵品をモチーフにしたオリジナルグッズの展開に加え、日々の生活に彩りを添える商品を季節ごとに投入して店舗の鮮度を維持し、お客様に繰り返し足を運んでいただけるシヨ

ップを目指す。

2.飲食事業

「加賀麩 不室屋」の歴史・伝統を活かした食事・甘味メニューに加え、季節感を取り入れたメニューを展開し、お客様層の拡大およびリピーターの増加を図る。また物販においても手土産・贈答にご利用いただける価格帯の詰め合わせを充実させ、飲食事業の売上の底上げを図る。

3. 貸室事業

「茶室」の貸出により収益を得るだけでなく、当館ならではの価値の訴求に寄与し、結果として日本のお茶文化の普及にも貢献していく。

以 上